

Techno Report

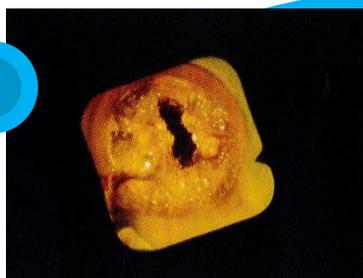
№167

配管の劣化診断調査のおすすめ

一般に建築躯体の耐用年数は60年程度とされていますが、建築部位の一部や建築設備は劣化による耐用寿命が短く15~20年程度で大規模な改修時期が訪れます。給水管の劣化被害としては、赤水の発生、錆び詰まりによる流量低下、腐食による漏水事故等があり、排水管では詰りによる排水量の低下、逆流、異臭の発生等があります。

これらの不具合を未然に防ぐために配管劣化調査を実施してみませんか?・・・様々な調査方法を駆使し、配管の耐用年数などの予測・診断を行います。配管改修を計画したいと考えている方、配管の状態を不安に思っている方、興味のある方、ぜひ弊社へご相談ください。

主な調査方法



写真は塩化ビニールライニング鋼管の診断事例です。

内視鏡調査の特徴

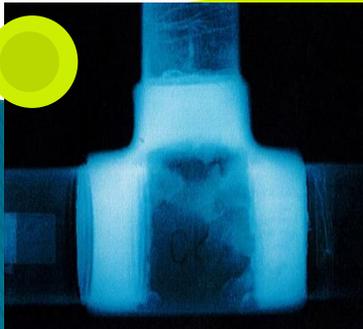
【利点】 切断せずに配管内面状況を目視観察できます。

【注意点】 断水が必要であり、内視鏡を挿入するために、配管の脱着が必要になる場合があります。

切断調査の特徴

【利点】 直接配管内を目視できてサンプル台を作成することで、よりインパクトの強いプレゼンテーションが可能です。

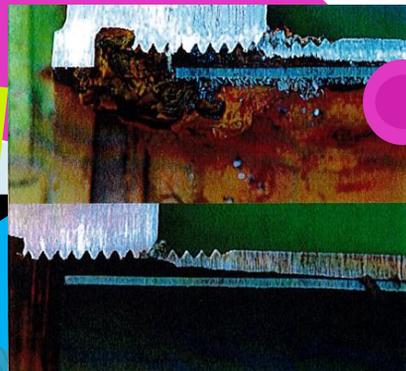
【注意点】 断水が必要であり、配管採取のため配管工事が必要となります。



エックス線調査の特徴

【利点】 断水の必要がありません。

【注意点】 安全の為、エックス線撮影時は立ち入り禁止区域を設ける必要があります。



発行 藤田テクノ株式会社 テクノレポート発行委員会
〒370-0069 群馬県高崎市飯塚町1174-5 TEL 027-361-8111 FAX 027-361-3686
太田支店 TEL 0276-46-1348 埼玉支店 TEL 049-279-3011

2017年10月発行

問合せ先 : 太田支店 メンテナンス課/酒井、発行委員会

URL : <http://www.fujita-tec.co.jp>

本紙は弊社よりの納品書等の郵送時に同封させて頂きますので重複等が発生する事がございます。予めご了承下さい。